

みなさん

長崎大学人 河野 茂です。

あっという間に12月になりました。

11月に暖かい日が続いたこともあり、12月に入ってから寒さは気温差が激しく、みなさん体調を崩してはいないでしょうか。

皆さんにとってはどのような1年でしたか。

今年もコロナのことに触れないわけにはいかない1年でしたが、重症化率も下がっていき、大学における行動規制も徐々に緩和しています。

緩やかではありますが「with コロナ」に向けた動きが進んでいるように感じます。

そのような中、大学では3年ぶりに「ホームカミングデー」を開催しました。

これは、大学のOB・OGを中心に教職員、学生が出身学部を超えて集まり、親睦を深める集まりです。

大学にとっては、最も新しい大学の姿を多くの方々に見ていただき、応援をしていただく大切な場でもあります。

久しぶりの開催という事もあり、集まったのは80人ほどでしたが、経済学部OBで現在TOTOの代表取締役会長を務めておられる喜多村円様に基調講演をいただき、

医学部OBで現在、福島県立医科大学の副学長を務める山下俊一長崎大学名誉教授に校友会賞を贈賞したほか、大石長崎県知事も飛び入り参加いただくなど、豪華多彩な顔ぶれで活気に満ちた会を開くことが出来ました。

中でも、感銘したのが喜多村会長によるご講演でした。

TOTOの創業理念と継承、それに基づいた経営戦略や使命、さらにはそれらの社員の皆さんへの共有の重要性についてお考えを語られ、形態は違うものの組織を運営する身として非常に示唆に富むお話でした。

そしてご講演後に周囲に感想を聞いても、皆、規模や立場こそ違えども、組織の運営においては同じ悩みを持つ者同士、誰もが良い勉強になった、と絶賛していました。

その喜多村会長のご講演の締めくくりは「それぞれの意思を大きく束ねるのが理念 理念の先にある夢(ありたい姿)を語る事が経営」という言葉でした。

経営に携わらなくとも、これは誰にでも当てはまる言葉だと思います。

夢を語る時、その基盤にはしっかりとした理念が必要です。

その理念は結局のところ私たちの意思、すなわち思いによって形作られます。

極端な解釈をすれば、強い思いがあれば、夢の実現も決して不可能ではない、というメッセージだと私は受け取りました。

この年末、サッカーワールドカップでの日本チームの活躍が世界を沸かせています。  
残念ながら日本は悲願の8強入りは果たせませんでしたが、ドイツとスペインを破り、世界をあと  
言わせて見せました。

8強入りという「夢」を果たすため、森保監督は彼なりの「理念」を持って森保ジャパンのサッカース  
タイトルを確立させました。

そしてその理念は、チーム一人一人の勝つという「意思」が束になったからこそ、確立できたもので  
しょう。

日本がコスタリカに敗れた時、森保監督は選手たちに「過去は変えられなくとも、未来は変えられる  
」と声を掛けたそうです。

それが、もう一度選手の「思い」を沸き立たせ、「夢」への原動力となってスペイン戦撃破をもたらした  
のではないのでしょうか。

年末年始は、自分の夢について考える数少ない機会ではないかと思います。

1年を振り返り、新年を迎えるにあたり、単に夢を思い描くだけでなく、その土台となる理念や、理念  
を生み出す思いの強さにまで考えを巡らせてみてはいかがでしょうか。

皆さんが良い年を迎えられることを祈ります。